

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税の恩恵」

国分寺市立第三中学校 3年 匿名希望

小鳥のさえずりを聞き、富士山を眺めながらのんびり歩く。私は、そんな登校の時間がとても好きだ。国分寺市は緑豊かなまちなので、このように登校時間を楽しむことができる。しかし、自然豊かなまちも、税金があるから維持できるのであって、税金なしでは決して豊かな自然を守ることはできない。納税の義務という、お金を取られるというマイナスのイメージを持っている人もいると思う。しかし、近所の公園や老若男女が利用する図書館、道路や信号、警察や消防といったサービスなど、意識さえすれば税の行く先を身近に感じることができる。実際私はそういった公共施設で様々なことを学んできた。

例えば図書館。私は幼いころから図書館によく通っていた。小学生の頃は、毎週のように図書館へ通い、本を読んだ。たくさん本を読んだことで読むスピードが速くなったし、図書館の様々なジャンルの本に触れたことで学校では習わないような知識を身に付けることができた。読書は私の趣味になった。中学生になってからは、調べ物をしたり、試験勉強をしたりするために図書館を利用するようになった。図書館は私が成長するのに欠かせないものだったと思う。図書館は、税によって成り立っている施設のうちのひとつだ。こう考えると税があって良かったということをしみじみと感じる。

義務教育の九年間は学費が無償とされていたり、市が開催しているイベントに無料で参加することができたりと税は、私たち子供が成長するのに欠かせない役割を当たり前のように支えてくれている。私たちが、楽しく学び、安全で緑豊かな環境で生活することができるのは、税のおかげなのだろう。

国分寺市は、緑豊かで歴史あるまちだ。しかし、その豊かな自然や歴史の跡は、管理をしなければ消え去ってしまうだろう。私たち市民は、税によってその管理を支えることができる。納められた税が、国分寺市の魅力を磨くことに繋がってくれたら嬉しい。

税を納めるということは、良き未来をつくるということだと思う。納めた税は、自分の日々の生活を支えるものとなってかえってくるし、誰かの幸せな未来へと繋がっている。私が働き手になったときは自分の受けた恩恵を忘れず、その恩返しだと思って税を納めた。

税によって、国民が力を合わせ、未来の日本をつくっていくのだと思う。